

エッセイ

歴史上の人物

その人気度（雑感）

堀江 洋之

1、はじめに

ネットを検索すると、文部科学省・国立教育政策研究所が、小学校の学習指導要領で例示した歴史上の人物四十二人について名前と業績が一致するかどうか全国の小学校六年生に調査した結果、「卑弥呼」・「ザビエル」・「ペリー」・「野口英世」・「雪舟」などは正答率が九十%を超えたが、幕末から明治の偉人のほとんどが、五十%以下であったことが判明したという。人気度というより、認知度といっても良い。大久保利通・木戸孝允は正答率が三十%を下回ったという。幕末から明治にかけて活躍した人物で平均を上回ったのは福沢諭吉（八十八・八%）だけであったという。しかし何故か南北朝時代の人物は除かれている。

2、別の資料

別の資料（法政大学史学教室編）

のリストでは、人気度第十四位グループに楠木正成が記載されている。

このグループには、伊藤博文・藤原定家・山鹿素行・宮沢賢治等超有名歴史上人物二十一名がランキングされている。

平成三十年二月七日の例会で、「南北朝の争乱と北畠親房が理想とした社会」と題して発表した。この席上で、会員から、南朝が好きで、北朝は嫌いとの声があった。好き・嫌いというのは、個人の主観的感情であって、何故であるのか、その理由についての表明はなかった。

3、水戸黄門について

かつて筆者が全国歴史研究会本部で水戸光圀公（黄門様）について、お話したときも同じような状況であった。そこで、日本の歴史上の人物の人気度について調査資料を検索したことがあった。

「水戸黄門」はテレビドラマで「水戸黄門」が放映されていて認知度は高いと思っていたが、上記資料（法政大学調査）によると、人気度は上位から十七位グループに属していた。

テレビの視聴率は、当時「黄門役」を演じていた俳優さん、また助さん・格さん役を誰が演じているのかにも左右されていたように、上映されているドラマは事実であったと信じていた視聴者も多かったです。従ってドラマの筋書きによって好き・嫌いが左右されていたと思われる。自分の出身地のあった藩の話であればドラマを見る視聴者も当然多く存在しても不思議はない。

黄門様（水戸光圀公）自身は、自分の祖母の菩提寺のある鎌倉の尼寺英勝院へは、法事で度々出かけていたが、箱根の温泉へは子供時代父親（頼房）に連れられて出かけた程度で、それより西方面には旅していない。

諸資料によると、テレビドラマの様に黄門様は、全国各地の他藩には旅をしていない。水戸藩領内では、ある目的をもって、家臣の家に付けていたようである。また日光東照宮には光圀のご先祖様（徳川家康公）が祀られているので、何度か参拝している。「講釈師見て来たような嘘を云い」で、黄門さんの没後、色々の話に尾ひれがついて、人を通して全国に広

まっていた。そして実際には存在しない役職・天下の副将軍が旅した事になっている。水戸と江戸藩邸間は幾度も行き来している。テレビドラマでは、黄門様が悪徳代官等悪人に発する慣用句は「天網恢恢、疎にして漏らさず」であった。「老子」七十三章の言葉である。そして最後には「この紋どころが見えないか」で、格（覚）さんが三つ葉葵の印籠を懐から取りだし、悪者共を懲らしめる場面見事にドラマをみて、留飲が下がる御仁も多い。完全に勧善懲悪指向のドラマである。

光圀は、中国の儒学者「朱舜水」を招聘し己の師とした。そして丁重に、水戸徳川家一族の墓所（瑞龍山）の中に朱舜水も埋葬されている。

自由奔放な生活をしてきた青年時代の光圀と、成人後の全く別人のように変身した光圀になっている。どちらも、水戸光圀である。

一九七四年平凡社より刊行された、法政大学文学部史学教室編の資料が目についた。これは、明治初年から昭和四十一年まで約百年間に日本で刊行された図書・雑誌の記事から日本人の伝記に関する

十数万に上る文献を調査して、三段以上記載の文献が挙げている人物・三万人を作家山田風太郎氏が整理して百三十六人を列挙している。大変な労作調査である。それを、大谷大学文学部哲学科教員、ブログより参照し、引用した。調査母体組織の性格上、宗教家が上位をしめている。

その一部を記載する。

例えば、●宗教家：親鸞・日蓮・空海・道元・法然・最澄である。

●作家・俳人：松尾芭蕉・石川啄木・夏目漱石・森鷗外・正岡子規・与謝蕪村・島崎藤村・渡邊崋山（洋学者・南画家）・尾形光琳・一茶・雪舟・斎藤茂吉・永井荷風・井原西鶴・西行・樋口一葉・二葉亭四迷・宮沢賢治・国木田独步・近松門左衛門・良寛・葛飾北斎・安藤広重・与謝晶子・柿本人麿・紫式部・兼好法師・上田秋成・北原白秋・清少納言・和泉式部

●教育学者・思想家：本居宣長・福沢諭吉・二宮尊徳・世阿弥・佐久間象山・頼山陽・賀茂真淵・新井白石

●政治家・武将：豊臣秀吉・吉田松陰・西郷隆盛・徳川家康・明治天皇・楠正成・神武天皇・松平定信・

織田信長・源頼朝・義経
●実業家・文化人：渋沢栄一・千利休・本阿弥光悦

南北朝史の中心的立役者は、後醍醐天皇と足利尊氏であろう。

後醍醐天皇は、鎌倉時代後期から南北朝時代初期にかけての第九十六代天皇、南朝の初代天皇である。鎌倉幕府を倒し、建武新政を

実施したが、足利尊氏の離反にあつて大和吉野へ入り、吉野朝廷（南朝政権）を樹立した天皇である。

筆者は、かつて吉野桜の最盛期に吉野を散策し、有名な上・中・下千本桜を觀賞し後醍醐天皇のご座所を訪れている。

一方足利尊氏は鎌倉時代後期から南北朝時代の武将で、室町幕府初代征夷大将軍である。足利將軍家の祖である。

Wikipediaによると、尊氏は栃木県足利市の生まれとされてきたが、近年（九十年代以降）否定され母親の実家上杉氏の本貫地である丹波国とされているという。

4、足利尊氏の屋敷跡

栃木足利市の鏝阿寺で尊氏は生まれたとされてきた。筆者はかつて仕事の関係で群馬県大泉町の

手電機メーカーに勤務していたので休日には、息子を連れて鏝阿寺境内の遊園地で幾度となく遊ばせていた。驚くことに足利尊氏の屋敷跡が子供の遊び場であつた時期がある。歴史的建造物が評価されない時代が存在した。それが平成二十五年（2013）鏝阿寺本堂が国宝に指定されている。平成十八年（2006）四月六日に足利氏館として日本百名城に選定されている。

その価値感の違いの落差に、筆者は目を白黒させている。

5、足利尊氏の評価

足利尊氏を逆族とする評価は江戸時代徳川光圀が創始した水戸学に始まるとする説がある。その傍の足利学校跡も子供が堀にのぼって遊んでいるのを覚えている。昭和30年代終わりから40年代初め頃は世相が、文化財より経済の発展を望む声が優っていた時代であつた。それが現在では、本堂が国宝に指定されている。時代の価値感とともに人物の評価も移ろふのであろう。

「水戸学」は、朱子学名分論の影響を強く受け、皇統の正統性を重

視していた。そのため正統な天皇（後醍醐天皇）を放逐した尊氏は逆賊として否定的に描かれることになつた。

歴史上の人物を知つて「人ほどのように生きれば」よいのであるうか、明の時代の呂新后が書き残した古典「呻吟語」が参考になると思ひ、ここに紹介する。彼は「深沈厚重なるはこれ第一等の資質」と冒頭に書いている。また「地位が高いほど耳や目が塞がれる」。「勝つことに慣れた者は敗れる」等の文言が踊つている。昔買い求めて本棚に置いていてわすれていた書物である。

6、天地自然の理

経営の神様と言われた松下幸之助さんが、書き残した言葉に「指導者は、天地自然の理を知りこれに従うことである」がある。「雨が降れば傘をさす」である。幸之助氏の好きな言葉である。

物の本によれば、テレビドラマ「水戸黄門」は当初テレビ関係者が企画段階で放映を躊躇していた番組であつたが、松下幸之助氏の鶴の一声で制作が決定されたと書かれている。（おわり）